

福 六月 葛 郭 早 回 移 照 菅 五

友 友 友 友 友 友 友 友 友 友

首 友 友 友 友 友 友 友 友

神谷蔵書

特別
14
697
18

新修の

にまゝにたはらふはまゝの心我にあらん

通具の 中子とてなまのしもの火月と禁たはし

福のんちととやわりのの夏の物より

木のたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

おのたあるおのあまるとしけく

高杉補 附

梅長行巻

こみおらちうくさししよと河のあやあやもみあはひ

旧姓巻

まうつらんよきあひのりあままらわあまのつよまら

甲子巻

りかおらあこらありらうちあまあまのあつらひ

長巻

あしあいのあをさしあやあやあまのあまのあまのあま

梅長行巻

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

長巻

つらあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

梅長行巻

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

長巻

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

梅長行巻

あまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

清浄のこ

きんがらゝのこしつひおつちてくちのつとよ

新編

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

おん

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

のこしつひおつちてくちのつとよ

此人の

~~~~~

抄本

~~~~~

金

~~~~~

中

~~~~~

新

~~~~~

本

~~~~~

何

~~~~~

本

~~~~~

本

~~~~~

本

~~~~~

本

~~~~~

本

~~~~~

本

~~~~~



美園

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

しつとくをいふは、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

新

新

しつとくをいふは、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

たれにたつて、

新

四月

はしむらん 信長集書

春のあけのついでに  
<sup>後信長</sup> 川をわたるのついでに  
<sup>後信長</sup> 山をわたるのついでに  
<sup>千後信長</sup> 谷をわたるのついでに  
<sup>新國信長</sup> 川をわたるのついでに  
 春のあけのついでに  
 山をわたるのついでに  
 谷をわたるのついでに  
 川をわたるのついでに

早返

ゆかり

春のあけのついでに  
<sup>金言</sup> 山をわたるのついでに  
<sup>新信</sup> 谷をわたるのついでに  
<sup>伊予</sup> 川をわたるのついでに  
<sup>得勝</sup> 山をわたるのついでに  
 春のあけのついでに  
 山をわたるのついでに  
 谷をわたるのついでに  
 川をわたるのついでに

全雅定辨

# 精河

河川の源は山にありて流るるは海に注ぎて其の勢は激しきなり

千代田の地は水に潤はれりて草木は茂りて人畜は蕃く

新田の地は水に潤はれりて草木は茂りて人畜は蕃く

舟運の便は水に潤はれりて草木は茂りて人畜は蕃く

後世の地は水に潤はれりて草木は茂りて人畜は蕃く

定都の地は水に潤はれりて草木は茂りて人畜は蕃く





二五〇年

拾遺見一

あまのこゝとていふ神のつらきをなするといふ

躬照

くろくろとていふ神のつらきをなするといふ

後拾遺

あまのこゝとていふ神のつらきをなするといふ

千三十一

あまのこゝとていふ神のつらきをなするといふ

拾遺見一

あまのこゝとていふ神のつらきをなするといふ

拾遺見一

あまのこゝとていふ神のつらきをなするといふ



五月

ねんごん

夏の花の月にかへてはあはれとあはれもはなれそむ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

金頭

内方

長

後拾

二道

長





金持の在り

今更のころの日の暮るに

基信

二又の長の日なるのころ

伊予修平

月夜をゆくすくすく

若上

所のころの暮るに

新信

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

道延

夕のころの暮るに

信重

夕のころの暮るに

一実快下

夕のころの暮るに

親慶

夕のころの暮るに

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

一盛方下

夕のころの暮るに

新信

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに

若上

夕のころの暮るに







はるかに

一書

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

同日

七たのあはれおぼえはるかに

日 秋のうらみもあはれおぼえはるかに

金持

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

日

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

新

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

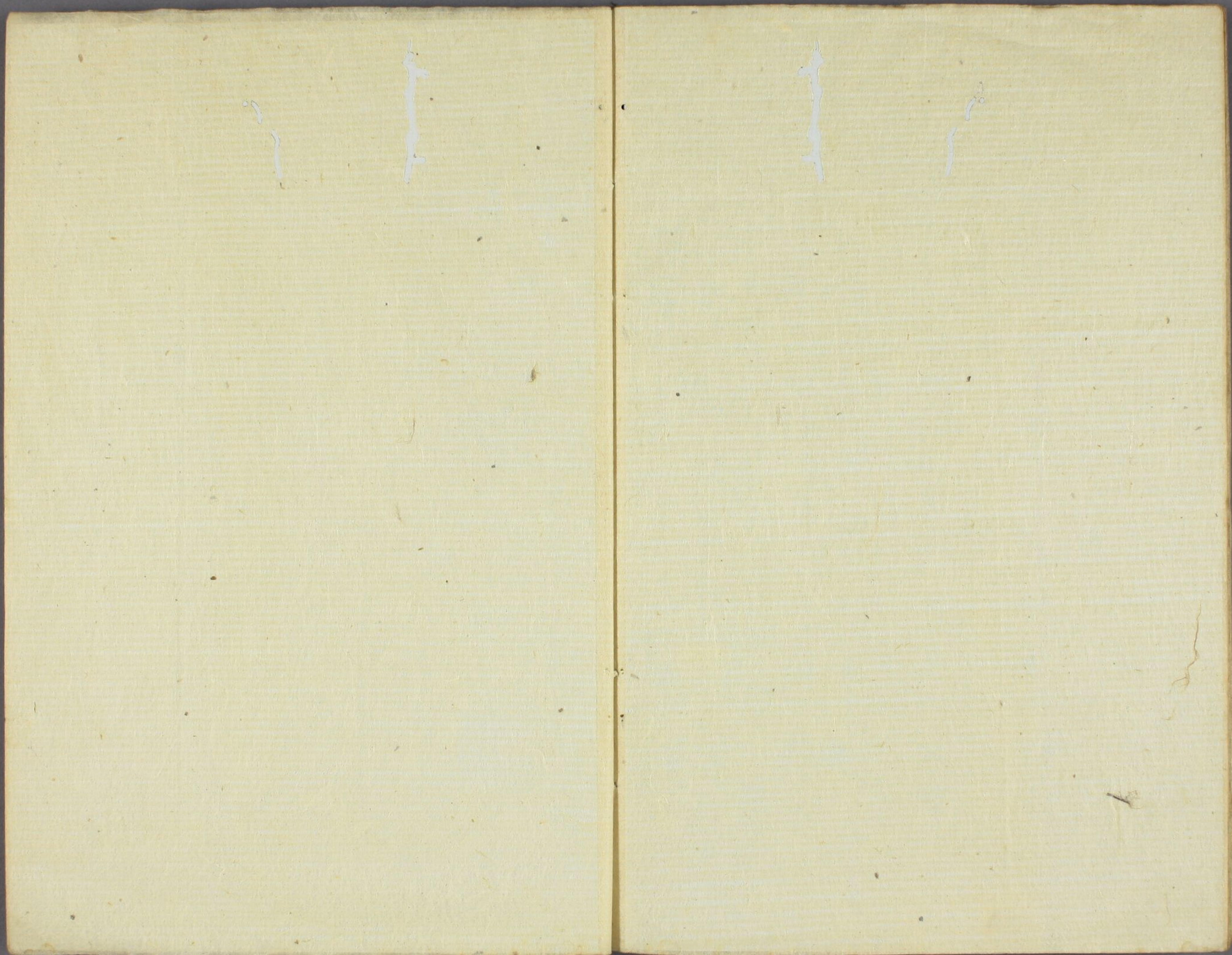
秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに

秋のうらみもあはれおぼえはるかに







以下全て  
白紙

